



## 静岡市長に防衛白書を説明

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・根本博之1等陸佐）は、10月21日（金）、南関東防衛局次長・越智文隆技官による静岡市長・田辺信宏氏に対する「平成28年版防衛白書説明」を支援した。

この説明は、平成11年から県内37の件及び市町に対し南関東防衛局及び静岡地本長が協力して行っているもので、防衛省の各種施策や活動について理解を深めてもらうとともに、今後一層の連携強化を図る目的で毎年実施している。

当日は、静岡市役所において、市側から市長、総務局長及び危機管理統括監が参加し、越智次長は我が国を取り巻く安全保障環境や防衛省の各種施策等についてわかりやすく資料を提示しながら説明した。

また、県内の一般災害時派遣の任務に就く陸上自衛隊板妻駐屯地（御殿場市）から第34普通科連隊長・山之内竜二1等陸佐と、静岡市防災担当部隊の同連隊長重迫中隊長・加藤進也1等陸尉が同席し、静岡市との更なる連携強化を確認するとともに、静岡地本長からは最近の募集活動の現状説明と市側の更なる協力を依頼した。

静岡地本は、今後も各自治体や防衛省各機関との関係強化を図り、防衛省・自衛隊の活動への理解促進と組織的募集基盤の拡充に努めていく。



## 「あらいじゃん」で航空自衛隊とともに広報活動

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・根本博之1等陸佐）は、10月23日（日）、新居文化公園（新居町）で開催された「あらいじゃん（新居町産業まつり）」において航空自衛隊浜松基地第1航空団の広報班と連携し広報活動を行った。

同イベントは新居町商工会が主催しており、当日は地域の子ども達による吹奏楽の演奏披露やハロウィンにちなんだ仮装イベント等が行われ、1万人を超える多くの来場者が訪れた。

自衛隊は公園前の歩行者天国に広報ブースを設置し、自衛隊の装備等を写した缶バッジ作りやミニ迷彩服と空自ミニ制服の試着体験、小型トラック等の自衛隊車両の展示を行い、車両を背景に記念撮影をする家族連れで大変な賑わいをみせた。

また、4月に発生した熊本地震に係る災害派遣活動の写真パネルや災害派遣時等に隊員の食事となる戦闘糧食等を展示した「防災展示コーナー」には、多くの来場者が足を止め、防災への関心の高さを伺わせた。

静岡地本は、引き続き地域との連携を強化し、イベント等の広報活動を通じて将来自衛隊を目指す若者等に自衛隊に対する理解促進や周知に努めていく。



## 伊東高校城ヶ崎分校で卒業生が進路講演

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・根本博之1等陸佐）は、10月28日（金）、伊東高校城ヶ崎分校において「卒業生による進路講演会」を行った。

今春同校を卒業後に自衛隊へ入隊し、現在は第12ヘリコプター隊（北宇都宮駐屯地）に所属する山口大樹2等陸士が、学校側からの依頼を受け「自衛官の魅力」と「自衛隊の仕事内容」について在校生約100名に対して講演を行った。

当日は自衛隊の他、さまざまな職業の社会人、専門学校生、大学生が参加し、5回に分けて全校生徒にそれぞれの職業や各学校の魅力を伝えた。

山口2士は、最初は緊張した面持ちであったものの、徐々に普段の口調になり「なぜ自分は自衛官を志願したのか」「前期教育の思い出や修業した時の達成感」そして「航空科で整備員として歩みだした体験談」を熱心に語り、「自分は当初漠然と災害派遣で活躍して多くの人を助けた、という思いだけで入隊したが、実際に入隊してみるとイメージとは違う厳しい部分も多かった。だからこそ、実際の経験をともに自衛隊の魅力や直接後輩に伝える機会をいただけて素直に嬉しい」と話していた。

現役自衛官であり、かつ先輩が伝える実際の自衛隊の姿について、生徒たちも今後の進路の参考にしようとして大変興味深い様子で聴講していた。

静岡地本は、今後も各学校との連携強化を図り、学生に直接体験談等を話せる機会を積極的に設けて自衛隊に対する興味や関心を高め、意欲ある人材の確保に連携していく。

